

「観光のまなざし」論を組み込んだ社会科観光学習

— 小学校第5学年 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」の場合 —

佐藤 克士（武蔵野大学教育学部）

内川 健（成蹊小学校）

要 旨

本研究の目的は、ジョン・アリーの「観光のまなざし」論を援用し、小学校社会科第5学年観光学習の授業及び評価問題を開発することである。研究成果は3点挙げられる。第1に、観光研究の成果をもとに、観光産業が注目される背景、特質及び影響について整理するとともに、「観光のまなざし」論を社会科学学習に組み込むべき意義について論じたことである。第2に、2020年版小学校社会科教科書における単元「観光業」の特質と課題を整理するとともに、それらの成果をもとに、単元「人気観光地！京都伏見神社の謎を探れ」を開発したことである。第3に、開発した単元プランの有効性について、その効果を検証するための評価問題を開発したことである。

キーワード：観光のまなざし、小学校社会科、観光学習、持続可能な社会の形成者

I はじめに

2003年に国土交通省が中心となってビジット・ジャパン・キャンペーン（訪日外国人旅行の促進活動）が開始されて以来、訪日外国人客数は右肩上がりが増加している。2018年は3119万人で日本政府観光局（JNTO）が統計を取り始めた1964年以降、過去最高の数字になった。こうしたわが国の観光立国の実現に向けた動きは、教育の分野にも波及している。例えば、2008年に国土交通省の外局として設置された観光庁では、次代を担う子供たちが、観光が果たす役割について理解し、関心を持ち、日本各地の観光資源の魅力を生かすことができる力を育ませるために、「総合的な学習の時間」を中心に、学校教育において観光教育（観光立国教育を含む）の普及をめざす取り組みを展開している¹⁾。一方、学校教育では、2008年版学習指導要領解説社会編（文部科学省、2008）に、「観光」という文言が新たに記載され、社会科の中で観光を取り上げた学習が求められるようになった。さらに、2017年版学習指導要領解説

社会編（文部科学省、2018）では、第5学年の学習内容として「情報化に伴う生活や産業の変化を視野に入れて、我が国の産業と情報との関わりに関する内容については、これまで『情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり』として示していた内容を『情報を生かして発展する産業』に改め、内容の取扱いにおいて『販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること（p.15、下線：佐藤）』と示された。訪日外国人客数の増加と共に、学校教育における観光に関する学習の必要性も高まっていると判断できる。

こうした状況を踏まえ、小学校社会科では観光に関する学習をどのように展開していけばよいのだろうか。このような問いについて、先行研究では、いくつかの方向性が示されてきた。例えば、佐藤（2012）は、社会科教育において観光を取り上げた学習を目標観（社会科教育の目標を一元的に捉えるか二元的に捉えるか）と学習観（直接的に取り上げるか、間接的に取り上げるか）の観点で分析し、4つの類型化（地域理解型観光学習、

地域理解・愛国心（郷土愛）育成型観光学習，社会認識形成型観光学習，社会認識形成・市民的資質育成型観光学習）された学習について，各類型の特質と課題を論究している．一方，寺本（2017）は，観光学習を通して観光による持続的な地域の発展に寄与できる「観光のまなざし」を育成すべきという主張のもと，観光客側の立場に立って観光資源を探させたり，観光客が楽しめる滞在型観光プログラムを作成したりする授業を提案している．さらに内川・佐藤（2019）は，地理教育先進国であるイングランド地理教育における「単元事例案（A scheme of work）」の分析を行い，その成果をもとに持続可能な社会の形成者育成をめざす観光学習の授業を提案している．

本研究では，こうした先行研究の成果を参考にしつつ，観光を「ゲスト（観光者），ホスト（観光地住民），そしてブローカー（政府や観光産業等）の3つの要素が相互に関連し合う“しくみ”から発言する多様な現象（安村，2001，p. 16）」と捉え，その本質を理解させるとともに，持続可能な社会の形成者育成に寄与することができる単元プラン及び単元プランの有効性について，その効果を検証するための評価問題を開発することを目的とする．その際，詳細は後述するが，観光研究の最も重要な概念の一つとして捉えられているジョン・アーリ（J. Urry）の「観光のまなざし」論を援用し，小学校社会科第5学年観光学習の授業を開発する．

以上を踏まえ，本研究では，下記の手順で論を進めることとする．

- ① 観光産業の概念整理を行い，観光産業が注目される背景，特質及び影響について概説する．また，観光産業を取り上げる際の視点を整理する．
- ② 「観光のまなざし」論の特質を整理するとともに，社会科授業に組み込む意義について観光研究の成果をもとに整理する．
- ③ 2020年版小学校社会科教科書における単元「観光業」を分析し，特質と課題を整理する．
- ④ ①～③で得た知見をもとに，単元開発を行う．
- ⑤ 開発した単元プランの有効性について，その

効果を検証するための評価問題を開発する．

II 観光産業が注目される背景，特質及び影響

観光産業とはどのような産業なのだろうか．ここでは，先行研究をもとに，観光産業が注目される背景，特質及び影響について整理する．

観光政策審議会（1995）は，「今後の観光政策の基本的な方針（答申第39号）」において，「観光は，21世紀のわが国経済社会の発展の核となりうる重要性を有している」と指摘した上で，「観光産業は，世界的に見ても，世界の雇用及びGDPの10分の1を確保していると言われ，21世紀の基幹産業になると見られている」と述べている．観光産業について，稲垣（1997，p. 103）は，需要の一部に観光需要を含む産業分野の総称であるとし，その内実を旅客輸送業，宿泊業，旅行業，その他の関連産業を挙げている．また，その特徴について，「観光産業は通常の産業分類のように，生産物を基準とする産業概念ではなく，旅客輸送業，宿泊業，旅行業，その他の関連産業などの業種に対応する需要の一部に観光需要が含まれている需要属性を基準とした横断的な産業区分が観光産業である」と述べている（稲垣，1997）．一方，大野（2009，p. 70）は，観光産業とは，「経済的な利益を得ることを目的として，人々のさまざまな観光行動に対応した財やサービスを提供する企業や業種の集まりであるとし，対象となる顧客は地元客やビジネス客が含まれるものの，顧客のかなりの部分が観光客である産業が観光産業である」と述べている．また，塹江（2001，pp. 93-97）は観光産業について，観光産業（tourist industry）とは，一般的にはホテル，旅館などの「宿泊業」，鉄道，航空，バスなどの「交通業」，観光客を案内する「旅行業」を中核とした産業であると指摘した上で，その特徴について人々の観光行動に対し，“財”及び“サービス”をもって対応する“営利”を目的とした“諸企業”の総体であるとし，観光行動に直接対応する観光産業の特徴を次のように整理している（表1）．

このように観光産業は，広範囲にわたる異業種

表1 観光者の観光行動に直接対応する観光産業

観光産業	観光移動	①移動機能産業	運送業	鉄道・航空・バス・船舶・タクシー・ロープウェイ・ケーブルカー
		②接遇機能産業	宿泊業 旅行業	旅館・ホテル・ペンション・民宿 旅行者・ランドオペレーター
	観光活動	①接遇機能産業	料飲業	レストラン・料亭・ドライブイン
			ガイド案内業	一般観光案内・各種ガイド
			土産品業	土産品店・宿泊機関・ドライブイン
		②娯楽機能産業	スポーツ施設	スキー・スケート・ゴルフ・海水浴場・テニス
			文化施設	美術館・博物館・劇場・水族館・動植物園・古代史跡園・神社仏閣
	入場施設	遊園地・遊技場・テーマパーク		

(聖江, 2001 をもとに佐藤作成)

の集合によるシステム産業的性格をもつがゆえに、一般の産業分類²⁾の枠組みでは理解しにくい、という指摘がある(末武, 1994, p. 245)。一方で観光産業は、複数の業種が組み合わせられて構成され、「複合産業」、「裾野の広い産業」としての特徴をもつことから、高い付加価値や新たなビジネスを創出しゆく新たな産業(「第6次産業」³⁾)として期待する意見もある(井口, 2008, p. 15)。具体的には、経済的効果(経済波及効果も含む)や社会的効果、文化的効果等が挙げられる(表2)。

ここでは、観光産業が注目される背景、特質及び影響について整理してきた。総じて、観光産業はそれ自身が有する複合性、多面性、変動性、地域性等を兼ね備えた産業であり、経済、社会、文化等、様々な分野に影響をもたらす特質がある。観光産業を授業の題材として取り上げる際、こうした観光産業が有する特質及び影響を踏まえて授業を構成する必要性が指摘できる。

III 「観光のまなざし」論を社会科授業に組み込む意義

ジョン・アリーの『観光のまなざし(The Tourist Gaze)』は、1990年に提起されて以来、観光研究においては、様々な分野の様々な脈絡や方法で援用・応用されており、観光研究の最も重要な文献の一つとして捉えられている(安村, 2004)。アリーの「観光まなざし」論は、フーコー(Foucault, M.)の医学のまなざし論を援用したも

表2 観光産業に期待される効果

経済的効果	所得効果	資本蓄積効果 外貨獲得(国際収支)効果 地域経済効果 投資効果 租税効果
	産業効果	所得・雇用創出効果 地域間格差縮小効果 後方連関(地域産業育成)効果 地域開発効果
	地域振興	地域社会基盤整備効果
社会的効果	生きがいの基盤形成 豊かな精神的生活の保証 心身の健康及び回復あるいは増進	

(村上, 1998; 山下, 1997; 今井, 2009; 小沢, 1997 をもとに佐藤作成)

のである。具体的には、観光行為がそれ自体では存立しえず、まなざしを決定する制度(社会や文化、そしてそれをつくり出す人間との関係)によって創り出されるというものである(アリー, 1995)。すなわち、観光客が観ている対象は、観光プロモーターなどの観光業者や専門家によって作られたものであり、それらはテレビや映画、雑誌などを通じて観光客にとっての非日常的なものを演出し宣伝され、そうして生み出された、諸々の記号を通じて、観光客のまなざしが形成され、観光客はその形成されたまなざしや非日常的な体験への期待を実感として果たすために観光地へ訪れることとなるのである(山本, 2010)。

遠藤(2004, p. 84)は、その特性について、①「観光のまなざし」は、映画、テレビ、雑誌等のメディアによって創り出され、強化され、支えられてい

る。②「観光のまなざし」は、映画、テレビ、写真等をおして視覚的に対象化され、実物を表象し、表象を実物で確認するという、生産性、再把握をくりかえす。③「観光のまなざし」は、映画、テレビ、雑誌といったメディアに内在する記号群に大きく依存する、と指摘している。

このように、「観光のまなざし」論において観光地（観光空間）は、所与のものではなく、まなざしによって創り出され、形成されるものと考えられている。こうした考え方は、構成（構築）主義的な考え方を基盤にしている。具体的には、観光空間が創り出される（生産される）と捉えている点で、ルフェーブル（Lefebvre, H.）の『空間の生産』の主張と類似している。

ルフェーブル（2000）によれば、社会空間には①可視的で物質的な事物の配列（空間的实践）、②都市計画家などが構想する知・記号・コードといった思考された空間の秩序（空間の表象）、③ユーザーや芸術家の領域である象徴を介して直接生きられる空間（表象の空間）の3つの空間次元があり、それらが相互に影響しあう三次元的弁証法によって社会空間が生産されるとしている。この論に依拠すれば、観光地（観光空間）は他性のイメージを通じて観光客によって生きられる「表象の空間」、都市計画家による土地開発計画などの「空間の表象」、土地会社などの観光資本による物質的空間形成としての「空間的实践」、という3つの空間の次元の相互関係によって生産されることになる。このように観光空間が所与のものではなく創り出される（生産される）という前提に立てば、ある観光地の形成過程やそのしくみについて理解させる必要性が指摘できる。さらに、現在、全世界的に求められているSDGsの視点に立てば、観光産業の特質やその影響を踏まえ、観光を“窓”に今後あるべき理想的な地域社会の方向性について、観光客・観光地住民・自治体（行政）及び観光関連業者等の様々な立場から多角的に考えさせることも重要となろう。

IV 令和2年版小学校社会科教科書における単元「観光業」の分析

ここでは、平成29年版学習指導要領に基づき作成された小学校社会科教科書を対象に、第5学年単元「観光業」がどのように取り上げられているか、について分析する。具体的には、上記で論じてきた「観光のまなざし」論の組み込みをはじめ、頁数、取り上げられている事例地及びレイアウト、設定されている学習問題、本文の記述内容について分析する（表3）。分析対象は小学校社会科教科書を出版している教科書会社のうち、比較的シェアの高い3社を選定した（池野ほか、2020；大石ほか、2020；北ほか、2020）。

1. 各教科書の学習単元と学習内容

1) 情報単元における観光業の取り扱い

小学校社会科教科書における観光業の取扱いは、いずれの3社とも情報単元の選択内容に位置づけられている。A社の「情報を生かして発展する産業」の単元では、気象情報を生かしたくらしやその関連産業についての学習内容が14頁にわたって取り上げられている。これに替えて、「情報を生かして発展する観光業」（6頁）、「医療に生かされる情報ネットワーク」（6頁）のいずれかの学習を選択することができる。B社の「くらしと産業を変える情報通信技術」の単元では、ICカードやPOSデータを利用したインターネット販売及びスーパーマーケットでの販売の学習内容に加えて、「観光に生かす情報通信技術」（2頁）、「健康なくらしを支える情報技術・大量の情報を生かす運輸・流通のしくみ」（3頁）のいずれかを選択して学習することになっている。C社の「情報を生かす産業」の単元では、コンビニエンスストアの情報を活用したサービスの学習内容に加えて、単元の学習内容をひろげる学習として、「情報を生かす運輸業」（2頁）、「情報を生かす観光業」（2頁）、「情報を生かす福祉産業」（2頁）の頁が設けられている。

2) 観光単元の学習問題と学習内容

観光業を取り扱う上で、各教科書では学習問題

が設定されている。いずれの場合も外国人観光客の増加に伴い、観光地としての情報を生かした観光業の仕組みや取り組みについて調べさせる問いが設定されている。A社は兵庫県豊岡市にある城崎温泉を事例地として取り上げ、「兵庫県豊岡市は、外国人観光客を増やすために、情報をどのように生かしているだろう」という学習問題を設定している。単元を通じて、外国人観光客をはじめとした旅行者のためにインターネット環境を整備し、旅行者が生み出す情報検索データを生かし、観光地のサービスの向上や魅力の発信の取り組みについて学習する構成となっている。B社は熊本県を事例地として取り上げ、「社会の変化に応じて、情報通信技術や大量の情報をどのように生かそうとしているのだろうか」という学習問題を設定している。「インターネットやICカードなどの情報通信技術を利用すると、情報が生まれる」ことを理解させながら、旅行者の情報検索から蓄積されたデータを生かした観光資源の魅力の発信の取

り組みについて学習する構成となっている。C社は兵庫県豊岡市にある城崎温泉を事例地として取り上げ、「旅行会社や観光地では、どのような情報をどのように活用しているでしょうか」という学習問題を設定している。インターネットによる旅行商品の販売の方法や、インターネットを活用した城崎温泉の魅力の発信について理解させながら、旅行会社や観光協会がインターネットを活用した旅行商品の開発や、魅力ある観光情報の発信に取り組んでいることを学習する構成となっている。

2. 教科書における観光業に関する記述分析

1) 観光の特質・影響の観点

観光の特質・影響の観点から分析した結果、いずれの教科書も観光そのものについての説明や、観光が事例地に及ぼす社会・経済・文化への影響に関する記述は見られない。また行政や観光産業がインターネットを通じた観光情報サービスを旅

表3 令和2年度版小学校社会科教科書における観光単元の比較

	A社	B社	C社
観光単元／情報単元	6頁／全56頁	2頁／全28頁	2頁／全42頁
事例地	兵庫県豊岡市城崎温泉	熊本県	兵庫県豊岡市城崎温泉
レイアウト 上段：資料 下段：インタビュー対象者	グラフ2枚, 写真8枚, 図5枚, 地図1枚 市役所・情報通信会社, バス会社で働く人	グラフ2枚, 写真1枚, 図1枚, 統計地図1枚 県の観光の企画にたずさわる人	グラフ3枚, 写真5枚, 地図1枚 観光協会・旅行会社で働く人
設定されている学習問題	兵庫県豊岡市は、外国人観光客を増やすために、情報をどのように生かしているだろう。	旅行会社や観光地では、どのような情報をどのように活用しているでしょうか。	社会の変化に応じて、情報通信技術や大量の情報をどのように生かそうとしているのだろうか。
本文の記述内容	行政や観光関連産業の記述はあるが、観光の地域社会に対する影響についての記述はなし。	行政の取り組みの記述はあるが、観光の地域社会に対する影響についての記述はなし。	行政や観光関連産業の記述はあるが、観光の地域社会に対する影響についての記述はなし。
「観光のまなざし」論を踏まえた記述内容	観光地の形成過程についての記述なし	観光地の形成過程についての記述なし	観光地の形成過程についての記述なし

(令和2年版小学校社会科教科書をもとに内川作成)

行者に向けて提供していることへの理解に留まっている。掲載されている各資料においても、観光業の情報を生かした旅行商品の販売やサービスの提供への理解について、外国人観光客が増加している事実を踏まえさせて理解することに留まっている。故に、各資料から観光による事例地の経済・社会・文化的な影響や効果については記述されていないと言える。また、インターネットを利用して旅行者が旅行先の観光情報を調べることは、結果的に、行政や観光産業にとっては新たな観光資源の魅力を提案していく機会になることが記載されているものの、それが観光地の経済や社会、あるいは文化的な側面に影響を与えていることについての記述は見ることができない。観光産業は、先述した「多様性・変動性・地域性等」を兼ね備えた産業である。そのため教科書では、観光と情報技術サービスの活用が結果的に観光地にどのような影響を及ぼすのかまで考察させることが必要である。

2) 「観光のまなざし」の観点

「観光のまなざし」論の観点から分析をすると、いずれの教科書も事例地の観光空間の形成過程についての記述は見られない。観光における情報サービスの活用の視点に留まっており、「観光のまなざし」論を踏まえた内容構成にはなっていない。

い。先述したように、観光地の歴史的な発展の経緯や過程にはおいてはテレビや映画、雑誌などのメディアの宣伝や広告効果による影響を受けている。つまり、観光資源は旅行者にとっては非日常的なものであるが故に、旅行者に好まれた結果として成立している。そのため、歴史的に発展の初期段階では、観光資源としての価値を高めるのは情報を発信に寄与しているメディアと言える。そのメディアが観光地にもたらす影響について理解させていくことは、観光業の学習を展開していく上で欠かせない視点である。以上を踏まえると、現行の教科書に基づく学習内容では、観光業そのものの特質や観光が地域に与える影響への考察や、観光地形成の概念的な理解を獲得していく上で改善の余地がある。

V 授業づくりと総括的評価

1. 単元名

人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ

2. 単元目標

○情報を生かす観光業の情報活用や人気観光地の秘密について、観光に携わる人々が行っている工夫（情報発信）や努力、観光客の情報活用の方法などに着目して、観光者向けの雑誌やHP

表4 単元の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度等
①人気観光地の秘密の仕組みをもとに、観光客はスマートフォンやタブレット等の端末から人気インターネットサイトの情報を活用して旅先を決めていること、自治体や観光関連業者は観光客の観光行動の特質を踏まえ、情報発信していることを理解している。	①観光に携わる人々が行っている工夫（情報発信）や観光客の情報活用の方法などに着目して、情報を生かす観光業の情報活用や人気観光地の秘密について追究したり、考えたりして、その特質を適切に表現している。	①情報を生かす観光業の様子や人気観光地の秘密について関心をもち、学習問題や予想を考え、意欲的に追究しようとしている。
②地図や統計などの資料を活用して、情報を生かす観光業の様子や人気観光地の秘密について必要な情報を集めたり、読み取ったりしてまとめている。	②観光客・自治体（行政）・観光関連業者などの立場から多角的に考えて、これからの観光業の発展の在り方を選択・判断している。	②情報を生かす観光業の現状を捉え、様々な情報を活用して展開している観光業の発展を考えようとしている。

(佐藤作成)

等をもとに調査したり、考えたりすることを通して、情報を生かす観光業の情報活用や観光客の情報発信・受信の方法及びその影響について理解することができるようにする。

- 情報を生かす観光業についての学習問題を意欲的に追究し、これからの観光の発展について、観光客・観光地住民・自治体（行政）及び観光関連業者等、様々な立場や視点から多面的・多角的に考えようとする態度を養う。

3. 単元の評価基準

表4参照。

4. 教材観

アメリカの観光情報サイト「トリップアドバイザー」が毎年発表している「外国人に人気の日本の観光地ランキング」で6年連続輝いているのが伏見稲荷大社（京都）である。伏見稲荷大社は、全国に30,000社あると言われている稲荷大社の総本宮であり、稲荷山に建てられた10,000基の鳥居からなる、通称「千本鳥居」が有名である。人気の秘密は、様々あるが、主要な理由は第1に伏見稲荷大社の特に千本鳥居が外国人にとって神秘的な魅力を感じさせること。第2に、実際に伏見稲荷大社を訪れた観光客がツイッターやインスタグラムといったSNSやメディア等（ロコミ）を通じて紹介されており、観光客にとって訪れてみたい場所として認知されていること。その他、伏見稲荷大社周辺の地域がアニメの舞台（「いなり、こんこん、恋いろは。」）になっていることや、京都駅から約5分、中心エリアの祇園四条駅からは約9分で到着できるといったアクセスの良さ等が挙げられている。

このような外国人観光客から熱いまなざしを向けられている観光地を取り上げ、人気の秘密を解き明かす学習を展開することによって、現代における観光者の情報活用の実態とその特質を理解させることができる。また、そうした観光客の観光行動の特質を踏まえ、自治体（行政）や観光関連業者が提供しているサービスに目を向けさせれば、観光業の発展に向けた自治体（行政）と観光

関連業者の情報発信の特質とその活用の実態を捉えさせることができる。さらに、観光が盛んになることによってもたらされる影響について考えさせる構成とすれば、現在深刻な社会問題として認識されているオーバーツーリズムの実態とその対策についても理解させることが期待される。

5. 単元の概要（全6時間）

本単元は、3つの段階で構成される（表5）。

第1段階は、観光地形成の要因について認識する段階である。ここでは「最も多くの外国人観光客が訪れる観光地はどこか」について予想させた後、「なぜ、伏見稲荷大社（京都府京都市）は、6年連続で『外国人に人気の日本の観光スポットランキングで第1位に選ばれ続けているのだろうか（トリップアドバイザーより）』という問いについて、考えさせる。その後、インターネットをもとに「伏見稲荷大社とはどのような場所なのか（魅力）」や「伏見稲荷大社がその場所を訪れた外国人観光客にどのように評価させているのか（ロコミ）」について調べさせ、調べた内容をまとめさせる。

第2段階は、観光地の取り組みについて認識する段階である。ここでは「伏見稲荷大社がある京都市では、外国人観光客に快適に過ごしてもらうために、行政や観光業は、どのようなサービスを提供しているのだろうか」についてそれぞれの立場で予想させた後、教科書や資料集、その他HP等をもとに調べさせ、調べた内容をまとめさせる。

第3段階は、観光によってもたらされる影響について認識する段階である。まず「京都市にたくさん外国人観光客が訪れることによってどのような影響もたらされているのだろうか」について予想させ、調べさせる。次に、「負の影響を緩和するために京都市ではどのような対策をおこなっているのか」について、資料をもとに考えさせることを通して、京都市のオーバーツーリズムの実態とその対策について理解させる。最後に、単元で学習した内容を生かして、京都市が今後さらに国内外の観光客に愛される観光地となるための方策について、持続可能な視点から考えさせる。

表5 単元「人気観光地！京都伏見神社の人気の謎を探れ」

過程	学習目標	○学習活動 ※予想される子供の反応	☆指導上の留意点 *資料	【評価基準】 (評価方法)
観光地形成の要因について認識する段階 (①②)	伏見稲荷大社（京都府京都市）が6年連続で『外国人に人気の日本の観光スポットランキング』で第1位に選ばれ続けている理由について、「場所の魅力」と「ロコミ（評価）」を視点を調査し、調査した内容をまとめることができる。	○現在、日本で最も多くの外国人観光客が訪れる観光地はどこか予想する。 ※ディズニールランド ※ユニバーサルスタジオジャパン等 ※浅草寺 ○資料①の結果をもとに学習問題を立て、予想する。		
		本時の問い なぜ、伏見稲荷大社（京都府京都市）は、6年連続で『外国人に人気の日本の観光スポットランキング』で第1位に選ばれ続けているのだろうか。	☆伏見稲荷大社の場所を地図帳で確認させる。 *資料② *資料③ ☆調べるWebサイトに関しては、教師側から紹介し、調べさせたい。	【知技②】 (発言・記述) 【態①】 (学習の様子)
観光地の取り組みについて認識する段階 (③④)	現在、外国人観光客が最もたくさん訪れている京都市において、外国人観光客に快適に過ごしてもらうために、自治体（行政）や観光関連業者が行っているサービスについて調査し、まとめることができる。	○前回の復習をした後、本時の学習問題について予想する。 本時の問い 伏見稲荷大社がある京都市では、外国人観光客に快適に過ごしてもらうために、自治体（行政）や観光関連業者は、どのようなサービスを提供しているのだろうか。 ※自治体（行政）も観光関連業者も様々な国の観光客が来ても大丈夫のように、HPなどは様々な言語に対応させて情報を発信しているのではないか（多言語対応）。 ※観光関連業者は伏見稲荷大社以外の場所にも訪れてもらうよう自治体（行政）と協力して、外国人向け用の観光ルートを提供しているのではないか。 ○予想した内容をもとに、資料④～⑥を活用して学習問題について調べ、まとめる。	*資料④ *資料⑤ *資料⑥ ☆前時同様、調べるWebサイトに関しては、教師側から紹介し、調べさせたい。	【知技①】 (発言・記述) 【思判表①】 (発言・記述)
観光によってもたらされる影響について認識する段階 (⑤⑥)	京都市が今後さらに国内外の観光客に愛される観光地となるための方策について、持続可能な視点から考えることができる。	○京都市にたくさんの外国人観光客が訪れることによってもたらされる影響について予想し、資料7をもとに調べる。 ○負の影響を緩和するために京都市が行っている取り組みについて、資料⑦をもとに考える。 ○京都市が今後さらに国内外の観光客に愛される観光地となるための方策について、持続可能な視点から考える。	*資料⑦	【思判表②】 (発言・記述) 【態②】 (学習の様子)

(佐藤作成)

【資料】①外国人に人気の観光スポットランキング2019 (URL: <https://tg.tripadvisor.jp/news/ranking/best-inbound-attractions/>), ②伏見稲荷大社スマホサイト (URL: <http://inari.jp/sp/>), ③伏見稲荷大社 ロコミ (URL: https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g14124535-d321456-Reviews-Fushimi_Inari_taiasha_Shrine-Fushimi_Kyoto_Kyoto_Prefecture_Kinki.html#REVIEWS), ④外国語による京都観光オフィシャルサイト「Kyoto City Official Travel Guide」(URL: <https://kyoto.travel/en>), ⑤外国人観光客用観光マップ(西京区版) (URL: <https://www.city.kyoto.lg.jp/nisikyo/page/0000245353.html>), ⑥北俊夫ほか(2020)『新しい社会5下』東京書籍, pp. 86-87, ⑦京都市観光振興計画2020 (URL: https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/book_cmsfiles/107/book.html)

観光単元テスト	名前	点
---------	----	---

問1 表は訪日外国観光客が旅行出発前に役に立った情報源のランキングです。この表を見て、分かることを答えなさい。(10点)

順位	役に立った情報源	%
1	個人のブログ	55.5%
2	SNS	30.3%
3	旅行ガイドブック	15.6%
4	その他インターネット	15.3%
5	自国の親族・知人	12.1%
6	宿泊予約サイト	11.7%
7	旅行社会社ホームページ	9.6%
8	宿泊施設ホームページ	8.9%

平成29年「訪日外国人消費動向調査」年次報告書より作成

問2 観光公害が起こると観光地住民にどのような問題が起こるでしょうか。次の記事の()に当てはまる語句を下の表の中のア～エの中から選んで()の中に記号を入れましょう。各2点(20点)



最近、「オーバーツーリズム」という言葉を聞くようになった。観光地に多くの人が訪れすぎて、①()の生活に②()をおよぼすことだ。日本では③()とも呼ばれている。もともとは、山や海でのゴミのポイ捨てや、④()が問題になっていた。最近では、路線バスや電車といった公共交通機関が⑤()したり、観光バスによる⑥()もおおきたりしている。外国人観光客の場合、勝手に私有地に入つての⑦()や騒音など、⑧()の遠いからマナー違反になっている面もある。個人が⑨()に投稿した写真が共有されて、それまで自立した場所が、⑩()になつてしまうケースも増えている。

朝日新聞朝刊2019年8月23日朝刊の記事をもとに作成

- ア. 入場料 イ. SNS ウ. 文化 エ. 観光被害 オ. 悪影響 カ. 良い影響 キ. 雑誌
ク. 生活 ケ. 観光公害 コ. 住宅地 サ. 自然破壊 シ. 消費税 ス. 生活破壊 セ. 混雑
ソ. 観光地 タ. 食事 チ. 写真撮影 ツ. 渋滞 テ. TV ト. 地元住民

問3 伏見稲荷大社では、増え続ける観光客によって、様々なトラブルが起きています。新聞記事を参考にしながら、増加する観光客のトラブルを防ぐ取り組みを考えてみましょう。(10点)

観光客が急増している伏見稲荷大社の周辺住民や行政・公共交通機関などで交通問題や環境美化について話し合う「伏見稲荷大社周辺の住みよいまちづくり会議」が開かれ、ごみ箱の増設や観光客の分散を図るためのマップの活用に取り組みなどを決めた。会議では、観光客の増加に伴う市民生活への影響を懸念、同大社が旅行口コミサイトで外国人に人気の観光地に挙がるなど、今後多くの人出が予想されることから、2019年3月から対策を検討してきた。この日中、間まともを決定し、商店街の各店舗がごみ箱を増やすほか、客待ちで駅前に待機するタクシーの取り締まりを府警を増やす方針を確立。龍谷大の学生が作成した観光マップも活用し、観光客の集中を防ぐ取り組みを進める。関係者は「住民も観光客も快適に過ごせるよう、地域一丸となつて知恵を絞りたい」と話した。

読売新聞 2019年4月30日朝刊の記事をもとに作成

問4 観光地に住む人やその地域に対して、観光客が訪れるとどのような恵みがあると考えられますか。表から読み取れることをふまえて、自分なりの考えを書きましょう。(10点)

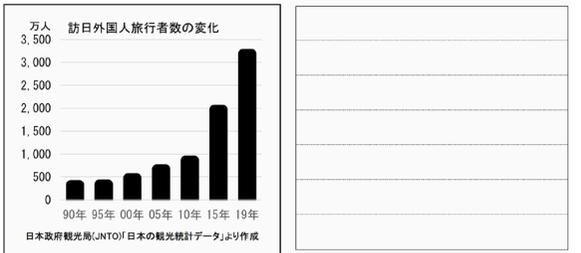


図1 総括的評価 (ポストテスト)

(内川作成)

6. 総括的評価 (ポストテスト) の作成

本単元の学習成果を図るため、総括的評価(以下、ポストテストと示す)を作成した(図1)。ポストテストを行うことで、児童が改めて観光産業と地域の社会・経済・文化の関係性について考察したり、そこで生じる問題について理解したりしているかどうかを評価することができる。また、児童が持続可能な観光という視点に立って、自分なりの考えをもてたかを評価する点でも、このポストテストを行う意義として見いだされよう。

本単元の理解度を図るポストテストは全4問、上記の単元の概要で設定した3つの段階に対応させて作成した。具体的には、本単元で学習した情報と観光の関わりの理解を評価する問題、学習の事例地である伏見稲荷大社のオーバーツーリズムの対策を理解する問題、「観光のまなざし」論や

観光の特質・影響を考察する問題である。問題の配列も上述した3つの段階(学習過程)に対応させて設定した。本ポストテストを通じて、児童が観光地の住民・観光客・自治体(行政)の観光に関する三者の立場や考えを理解しつつ、さらにはその関連性について多面的・多角的に考えることができたかどうかを評価する内容となっている。

問1は、「観光のまなざし」論に関連させた本単元の学習内容について理解しているかを問うている。資料から、多くの訪日外国人観光客は、来訪経験のある旅行者の個人のブログやSNSでのアドバイスを参考にしながら旅行プランを考えていることが分かる。ここでは表からその事実を読み取り、既存の学習を生かして記述できているかを評価する。

問2は、観光の損失への理解を理解しているか

を問うている。ここでは学習の成果を生かし、オーバーツーリズムを解説する記事の空欄部分に適切な語句を入れる中で、その理解度を評価する。

問3は、観光の特質・影響について理解しているかを問うている。ここでは、新聞記事から伏見稲荷大社を訪れる観光客が引き起こすトラブルの対応策について考察する。増加する観光客に対して、地元住民がゴミ問題や観光客の集中を防ぐ取り組みを行っている事実を捉え、住民も観光客も快適に過ごせる対応策について、新聞記事の内容も含めて記述できるかを評価する。

問4は、観光の恩恵について理解しているかを問うている。グラフから、訪日外国人観光客が増加している事実を読み取り、既習した地域の経済・社会・文化に大きな恩恵を与えている知識と関連させて考察するものである。ここでは、観光が多く訪れることで、地域の人々の交流が盛んになることや、地域に賑わいを生み、経済効果の恩恵を受けることを記述できたかどうかを評価する。

VI 結 論

本研究の目的は、ジョン・アーリの「観光のまなざし」論を援用し、小学校社会科第5学年観光学習の授業及び評価問題を開発することであった。研究成果は3点挙げられる。第1に、観光研究の成果をもとに、観光産業の概念及びその特質を整理するとともに、「観光のまなざし」論を社会科学学習に組み込むべき意義について論じたことである。第2に、2020年版小学校社会科教科書における単元「観光業」の特質と課題を整理するとともに、それらの成果をもとに、単元「人気観光地！京都伏見神社の謎を探れ」を開発したことである。第3に、開発した単元プランの有効性について、その効果を検証するための評価問題を開発したことである。今後の課題は、開発した授業モデルの有効性について、実験授業を通して検証していくことである。

注

- 1) 観光庁 HP「観光教育の普及に向けて」URL : https://www.mlit.go.jp/kankochou/shisaku/sangyou/kyoiku_juujitsu.html (閲覧日: 2020年2月10日)
- 2) 総務省 HP「日本標準産業分類の一般原則」URL : https://www.soumu.go.jp/main_content/000286955.pdf (閲覧日: 2020年2月10日) 我が国において産業は、総務省統計局・政策統括官・統計研修所の定義に従った日本標準産業分類が用いられている。
- 3) 「第6次産業」という用語は、東京大学名誉教授の今村奈良臣による造語である。今村(2009)は6次産業について、「農産物の生産(第1次産業)、食品加工・製造(第2次産業)、流通・販売、さらに観光(第3次産業)を組み合わせ、多角的または他業種との連携による経営によって、高い付加価値や新たな食と農の関連ビジネスを創出していく新しい産業である」と述べている。

文 献

- アーリ, J. 著, 加太宏邦訳(1995):『観光のまなざし——現代社会におけるレジャーと旅行——』法政大学出版局。
- 井口 貢(2008):観光学の新たな地平を目指して。井口 貢編(2008):『観光学への扉』学芸出版社: pp. 7-16。
- 池野範男ほか(2020):『小学社会5年』日本文教出版: pp. 222-227。
- 稲垣 勉(1997):観光産業。長谷政弘編『観光学辞典』同文館: p. 130。
- 今井成男(2009):観光の及ぼす影響。JHRS編『観光概論 改訂第8版』JHRS: pp. 14-15。
- 今村奈良臣(2009):地域に活力を呼ぶ農業の6次産業化。『Future SIGHT』44号: pp. 2-5。
- 内川 健・佐藤克士(2019):持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習——イングランド地理教育「単元事例案」を手がかりにして——。『サステナビリティ教育研究』1: pp. 13-26。
- 遠藤英樹(2004):観光空間・知覚・メディアをめぐる新たな社会理論への転回。遠藤英樹・堀野正人編『「観光のまなざし」の転回』春風社: pp. 83-98。
- 大石 学ほか(2020):『小学社会5年』教育出版: pp. 192-193。

- 大野正人 (2009) : 観光産業の定義と種類. 羽田耕治編『観光学基礎』JHRS : pp. 70-73.
- 小沢健一 (1997) : 観光の経済効果. 長谷政弘編『観光学辞典』同文館 : p. 120.
- 塹江 隆 (2006) : 『観光と観光産業の現状【改訂版】』文化書房博文社.
- 観光政策審議会 (1995) : 今後の観光政策の基本的な方向について (答申第 39 号). URL : <http://www.mlit.go.jp/singikai/unyusingikai/kankosin/kankosin39.html>. (閲覧日 : 2020 年 2 月 10 日)
- 北 俊夫ほか (2020) : 『新編新しい社会 5 下』東京書籍 : pp. 86-87.
- 佐藤克士 (2012) : 持続可能な社会の形成者育成としての社会科観光学習 : イギリス地理テキストブック “Horizon 2 Geography 11-14” を手がかりにして. 『社会系教科教育学研究』24 : pp. 21-30.
- 末武直義 (1994) : 観光事業. 足羽洋保編 (1994) : 『新・観光学概論』ミネルヴァ書房 : pp. 232-249.
- 寺本 潔 (2017) : 島の栽培植物と寺院の観光資源としての価値に着目した学び——沖縄石垣市の小学校 4 年生への出前授業を通して——. 『玉川大学教育学部紀要』16 : pp. 37-60.
- 安村克己 (2001) : 『社会学で読み解く観光——新時代をつくる社会現象——』学文社.
- 安村克己 (2004) : 観光の理論的探究をめぐる観光まなざし論の意義と限界. 遠藤英樹・堀野正人編『「観光のまなざし」の転回——越境する観光学——』春風社 : pp. 8-24.
- 山本祥弘 (2010) : まなざしが社会を変える. 現代位相研究所編『本当にわかる社会学』日本実業出版社 : pp. 170-171.
- 文部科学省 (2008) : 『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版.
- 文部科学省 (2018) : 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 社会編』日本文教出版.
- ルフェーブル, H. 著, 齊藤日出治訳 (2000) : 『空間の生産』青木書店.

**Tourism Learning in Social Studies Incorporating the Concepts of “The Tourist Gaze”:
A Case Study of the Fifth Grade “Exploring the Mystery of Kyoto Fushimi Shrine
as a Popular Tourist Destination”**

Katsushi SATO (Faculty of Education, Musashino University)

Takeshi UCHIKAWA (Seikei Elementary School)

Keywords: The Tourist Gaze, elementary social studies, tourism studies, sustainable society